

## 第2章 三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会の実現をめざして

「みえ県民カビジョン・第二次行動計画」（以下「第二次行動計画」という。）では、「経済的な豊かさ」、「社会のシステムやつながりの豊かさ」、「精神的な豊かさ」の3つの豊かさを高めていくことで享受できる豊かさを「新しい豊かさ」ととらえ、県民の皆さんが「新しい豊かさ」を享受できるよう三重づくりを進めることで、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」の実現を図ってきました。

第三次行動計画においては、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」の社会像を、改めて「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」ととらえた上で、「令和」の時代に留意すべき新しい概念である「Society 5.0」と「SDGs（持続可能な開発目標）」の視点を取り入れて、その実現をめざすこととします。

### 1 三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会について

（めざすべき三重の姿）

「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」の社会像について、第二次行動計画では、「新しい豊かさ」を享受できる、時代の分水嶺の先のめざすべき三重の姿として、次のような社会をイメージしています。

- 将来に対して不安を感じることなく、安心して暮らすことができる社会
- 自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる社会
- ライフステージに応じて多様な働き方ができる社会
- より高い目標に向けてチャレンジができ、失敗しても何度でも挑戦できる社会
- 家族の絆や地域のつながりを感じ、支え合って暮らすことができる社会
- 美しい自然や多彩な文化などの魅力あふれる地域に、愛着や誇りを感じながら暮らすことができる社会
- 活力のあるさまざまな産業が発展する中で、めざす仕事に就き、いきいきと働くことができる社会

第三次行動計画においては、このめざすべき社会の姿を「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」と表現します。

（三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会）

私たちは、平成25（2013）年の第62回式年遷宮や平成28（2016）年の伊勢志摩サミットの経験を通じて、「自然と人との共生」や「伝統文化の継承」、「多様性への寛容」など、時代を超えて育んできた先人の精神性や価値を改めて認識することができました。

また、松浦武四郎や本居宣長などの三重の偉人に代表されるように、三重の地は、人、もの、情報が交流することで、新たな価値観や考え方を生み出すという気概やDNAが受け継が

れていると考えます。

さらに、三重県らしい取組として、全国に先駆けて「ダイバーシティみえ社会推進方針～ともに輝く、多様な社会へ～」を策定し、ダイバーシティ社会の実現に向けた取組を進めているところです。

こうした背景をふまえると、共感性を高く持ち、他人の痛みを感じ、いたわり、助け合う、そして、どんな文化や価値観の違う人に対しても、理解し、包み込むという「多様性」「包容力」は、先人から継承されてきた県民性と考えられます。そして、この県民性は、日本、さらに世界における先進的な存在となりうるものです。

今後、人口減少、少子・超高齢化や経済のグローバル化、価値観やライフスタイルの多様化などが進展していく中で、性別、年齢、障がいの有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などにかかわらず、全ての県民の皆さんが自ら希望の実現に向けて主体的に社会に参画し、自分らしく挑戦することで、地域の自立的な発展につなげていくためには、お互いの違いを価値と認め合い、多様性を受容する社会づくりがより一層必要になると考えられます。

第三次行動計画では、三重の持つポテンシャルである「多様性」「包容力」を深化させ、未来にしっかり継承していくことで、「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」の実現をめざしていきます。

## 2 Society 5.0 の考え方

国の「第5期科学技術基本計画」において提唱された Society 5.0 は、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かく対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、いきいきと快適に暮らすことのできる社会」を「超スマート社会」ととらえた上で、その未来社会の実現に向けた一連の取組として整理される概念です。

Society 5.0 は、持続可能で、インクルーシブな社会経済システムであると考えられ、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を生み出す変革を科学技術イノベーションが先導し、仮想空間と現実空間を高度に融合させることで、「経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」の実現をめざしています。

人口減少と少子・超高齢化が並行して進展する中で、こうした Society 5.0 の考え方を取り入れ、地域課題を解決し、快適で活気に満ちた質の高い生活を実現することは、「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」をめざす第三次行動計画の方向性に通じるものと考えられます。

また、新しい産業政策の方向性を示した「みえ産業振興ビジョン」においても、Society 5.0 による超スマート社会の到来を強く意識し、既存の価値にとらわれずに、知恵や知識、技術



出典：内閣府作成資料

を国内外から積極的に取り込み、それらを組み合わせ、あるいは繋ぎ直していく「KUMINAOSHI」を進めることで、新しい価値の創出につなげていくことを基本理念として掲げているところです。

複雑に絡み合う地域の課題を解決するとともに、強じんて多様な産業構造を構築していくには、今後の施策展開において Society 5.0 の視点をこれまで以上に積極的に取り込んでいく必要があります。

Society 5.0 の実現による超スマート社会は、いずれ訪れるものではなく、私たちが、未来の三重県の姿を思い描き、社会のあらゆる領域において、その視点を積極的に取り入れていくことにより、創り上げていかなければなりません。

### 3 SDGs（持続可能な開発目標）の考え方

SDGs（持続可能な開発目標）は、平成 27（2015）年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」（以下「2030 アジェンダ」という。）における 2030 年に達成すべき国際社会全体の開発目標で、貧困の解消など、17 のゴールと 169 のターゲットで構成されています。また、「誰一人取り残さない（no one will be left behind）」ことを理念とし、持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現をめざすこととされています。



出典：国際連合広報センター作成

2030 アジェンダの採択後、初めて開催された伊勢志摩サミットでは、「G7 伊勢志摩首脳宣言」において、人間中心かつ地球に配慮した形で、国内的及び国際的に 2030 アジェンダの実施を推進することにコミットすることが世界に発信されました。

SDGs の 17 の目標（ゴール）は、経済・社会・環境の 3 つの側面を一体不可分なものとして、相互のつながりを深く理解し、紐解くことで、地域が取り組むべき複数の課題の同時解決をめざすものであり、こうした SDGs の考え方は、私たちがめざす社会の姿である「三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会」の実現に大きく寄与するものと考えられます。

また、SDGs では、17 番目の目標（ゴール）としてパートナーシップの活性化が掲げられており、個人や企業、地域の団体、行政など、多様なステークホルダーによる効果的なパートナーシップが奨励・推進されています。SDGs の導入は、多様なステークホルダーの自治体活動への参加をより具体化し、地方行政の一層の活性化に資するものと言えます。

こうした考え方は、「みえ県民カビジョン」が掲げる「自立し、行動する県民（アクティブ・シチズン）」が、「公」を担う主体として、協働による成果を生み出し、新しいものを創造していく「協創」の考え方に通ずるものと考えられます。

## 4 県の施策展開

「令和」という新しい時代を迎えた今、人口増を前提とした右肩上がりの成長は見込めなくなり、従来の社会モデルが通用しない時代に突入しています。

こうした中、Society 5.0 や SDGs の実現によりめざす未来の社会像は、「行動に制約がある高齢者や障がいのある方々が、自由に移動でき、充実した生活が送れる」、「地域にかかわらず、質の高い医療や介護のサービスが受けられる」、「AI の活用や情報の共有によりさまざまなロスが削減され、経済的損失と環境負荷の低減を図れる」など、先端技術を取り入れることで、イノベーションが生まれ、さまざまなつながりが増え、多様な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことで、社会的課題が克服されるとともに、一人ひとりが快適で活力に満ちた、質の高い生活を送ることができる新しい社会の姿です。

そこで、第三次行動計画においては、これら2つの考え方を施策展開の拠りどころとして位置づけ、次の視点に基づき、施策や事業を企画立案し、展開していきます。

### Society 5.0 の視点

#### 視点① 「イノベーション」による新たな価値の創出と課題解決

- ・さまざまな知識・情報・データの共有や組み合わせを進めることにより、分野横断的な連携を活性化させ、今までにない新たな価値を創出するとともに、社会的課題や困難を克服します。
- ・業務プロセスに新しい技術・知恵・情報を組み込むことでイノベーションを生み、成果の拡大、生産性の向上、環境負荷の低減、コストの抑制等を実現します。
- ・人間の能力では限界のある業務や負担感の大きい作業を先端技術で代行・支援することにより、業務の効率化、労働負荷の低減、機械ではなく人間にしかできない業務へのシフトを進めます。

#### 視点② 多様なニーズへのきめ細かな対応による生活の質の向上

- ・さまざまな情報・データ・技術の活用により、県民一人ひとりの多様なニーズ、潜在的なニーズを把握して、きめ細かなサービスを充実し、快適で活力に満ちた質の高い生活を実現します。
- ・先端技術の導入・活用により、性別、年齢、障がいの有無、言語等による格差や制約を解消し、県民一人ひとりが個性や能力を発揮し、活躍できる環境づくりを進めます。

#### 視点③ いつでもどこでも「つながる」ことによる機会の創出

- ・先端技術の導入・活用により、地理的・空間的課題を克服し、遠隔地や過疎地域など距離や時間の制約がハンデにならない働き方の推進やサービスの創出を図ります。
- ・自動運転や MaaS (Mobility as a Service) など新たな移動手段の普及により、交通ネットワークの新たな「つながり」を創出し、県内における移動の利便性を向上させます。

- ・先端技術の導入・活用により、県内に居住するかどうかにかかわらず、地域の担い手とのコミュニケーションを拡大し、新たな「つながり」を創出することで、地方創生の取組を進めます。

#### **視点④ Society 5.0を支える人材・基盤づくり**

- ・データリテラシーを備えるデジタル人材を育成するとともに、AI時代に産業界で求められる人材を確保します。
- ・時代の変化や新たな職務に応じて学び直すリカレント教育を広げ、多様な人材が活躍できる機会を創出します。
- ・デジタル時代のデータの利活用を支える情報通信基盤の整備を促進するとともに、行政情報のオープンデータ化や、個人情報保護等の情報セキュリティの高度化を図ります。

### SDGsの視点

#### **視点① 誰一人取り残さない（包摂性）**

- ・性別、年齢、障がいの有無、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などにかかわらず、全ての県民の皆さんが自らの希望の実現に向けて、主体的に社会に参画し、自分らしく挑戦することで、地域の自立的な発展につなげていきます。
- ・特にジェンダーの平等を達成するためには、性別にかかわらず、自立した個人として、その能力と個性を十分に発揮することができ、それぞれに多様な生き方が認められ、男女が対等な立場で、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任を分かち合うことができる環境づくりが必要です。

#### **視点② 全てのステークホルダーが役割を担う（参画型）**

- ・全ての県民の皆さんが、自立し、行動する県民（アクティブ・シチズン）として、協働による成果を生み出し、新しいものを創造していく「協創」を進めます。
- ・地域住民はもとより、産官学金労言士をはじめとする多様なステークホルダーと、それぞれの知識やノウハウ、経験を活用し連携することにより、効果的に地方創生の取組を推進します。
- ・次代を担う子どもたちが夢や希望を抱き、三重県に愛着と誇りを感じ、地域社会で活躍、成長していけるような人づくりを進めます。

#### **視点③ 経済・社会・環境の3つの側面で統合的に取り組む（統合性）**

- ・経済・社会・環境の各分野の課題を解決するため、課題相互の関連性を意識し、統合的に取り組むことで、相乗効果を発揮し、持続可能な経済成長と、人と自然との共生の両立を進めます。

これら2つの視点に基づき、複雑かつ多岐にわたる三重県を取り巻く課題解決に向けて、Society 5.0を支える技術を活用した取組や、経済・社会・環境の3つの側面からの統合的な取組に挑戦することで、全ての県民の皆さんが快適で活力に満ちた質の高い生活を送り、「新しい豊かさ」を享受することができる三重づくりが進むものと考えます。

第三次行動計画では、「協創」の視点に加えて、Society 5.0 および SDGs の視点を取り入れることにより、三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会の実現をめざします。

**協創による「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりを進めることで、三重県らしい、多様で、包容力ある持続可能な社会の実現をめざします。**